

# 「地域性」を簡易に把握できることを目指して



環境研究部 河川環境研究室 室長 **今村 能之** 主任研究官 **原野 崇** 研究員 **伊藤 嘉奈子**

(キーワード) 水循環健全化 地域活動 継続・安定 地域性

## 1. 水循環健全化のためには住民などによる継続・安定した地域活動が必要

水循環健全化には、行政施策のみならず、住民や事業者等による主体的な取り組みも必要である。住民等が中心となった水循環健全化に役立つような地域活動は全国で行われているが、このような活動は継続・安定して行われることも重要である。

## 2. 継続・安定した地域活動のためには、地域で活動する団体や行政が「地域性」をよく理解することが重要 —静岡県三島市の事例紹介—

継続・安定した地域活動のために重要なこととは何か？ヒアリングを通じて整理した。

- 活動団体が、その地域の「地域性」をよく知り、「地域性」に応じた活動を行っている。
- 地域の住民が協力的で、活動を支えている。
- 行政による的確な支援が行われている。

つまり、活動団体や行政が「地域性」をよく理解した上で、活動や支援を行うことが必要である。

たとえば、三島市を中心に水辺の再生・改善活動等を行っているグラウンドワーク三島では、活動（例：ビオトープを作る等）を始める前に、対象地域の課題から住民の人間関係までよく調べることから始める。その方法は、町内の集会に出席したり、飲んだり、勉強会を開いたり…対象地域によって様々である。

地域に入り、まずは、地域の持つ課題を整理したり、人間関係を知ったり、地域で課題を共有してもらったりする。この取組を踏まえて活動を行うことで、地域性に応じた活動を行うことができ、そうして活動は地域において継続して行われるようになる。

## 3. 「地域性」の構造を調べて、簡易に「地域性」を把握するための方法

「地域性」を理解するには努力も才能も必要だから一部の優秀な人材（リーダー）に頼っている、という現状がある。そこで国総研では、比較的簡易に「地域性」を把握できる方法について検討している。

まず、「地域性」の構造を知るために、地域活動が活発な地域とそうでない地域で住民アンケートを実施し、地域活動の活発さ（活動への参加頻度）と地域性との相関関係の把握を試みた。

町丁別に集計した調査結果から、以下の傾向が見られた。（表-1参照）

- 自治会活動の活発な町には、挨拶をする習慣が他よりもあり、更に、比較的新規居住者で、戸建て住宅を所有し、遠距離通勤をする住民が多い
- NPO活動の活発な町には、定住志向が高く、地元出身者や居住年数の長い住民が多い 等

今後は、より詳細な分析を通して「地域性」の構造を整理し、既存の統計データや比較的簡単なヒアリングから簡易に「地域性」を把握するための方法を提案することを目指している。

表-1 各地域活動への参加頻度と地域性の相関係数

地域性の項目	自治会	NPO
挨拶の習慣	0.42	-0.3
平均居住年数	-0.44	0.53
戸建て率	0.42	0.05
持ち家率	0.53	0.15
職場位置の近さ	-0.4	0.29
定住志向	-0.22	0.55
出身地近さ	-0.44	0.44

※網掛：有意水準（5%）を満たさない項目

- ・自治会…自治会活動への参加頻度の高い住民が多い町
- ・NPO…NPO活動への参加頻度が高い町

【参考】河川環境研究室HP（本稿関連論文も掲載）

<http://www.nilim.go.jp/lab/dbg/index.htm>